

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(中東 VIP 劇場シリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/VIPtheatre.html> )

(サウジアラビア: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SaudiArabia.html> )

マイライブラリー:0305

(注)本稿は 2014 年 3 月 16 日に「アラビア半島定点観測」に掲載したものです。

2014.3.16  
前田 高行

### 中東 VIP 劇場サウジアラビア篇:サルマンは皇太子失格?



サウジアラビアのサルマン皇太子は2月下旬に日本、インド、パキスタンを訪問、帰国後席の温まる暇もなく3月6日から3日間中国を訪問した。日本では安倍総理と会談したほか、天皇陛下の午餐会に招かれ<sup>1</sup>、中国でも習国家主席、李首相等と面談<sup>2</sup>、日中両国との共同声明では「戦略的パートナーシップ」を確認している。今年78歳(1936年生)で健康も優れない中、立て続けに外遊をこなすのはかなりハードであったろう。しかし現在サウジアラビアが直面している問題の優先度と比べると今回の外交がどれほど意味があったのか疑問を禁じ得ない。



筆者はサルマンの Riyadh 州知事時代から10年以上彼の動静を追っているが、彼に対してかなり厳しい見方を持っている。彼は性格が優柔不断で健康面でも不安が絶えない。それでも彼が40年以上首都 Riyadh 州の知事を務めることができたのは、母親が同じ3人の実兄、即ちファハド(第五代国王)、スルタン(元国防相)、ナイフ(元内相)と支え合ってきたからである。その意味でサルマンは兄達の腰巾着として彼らを支えるため、サウド家内部の異母兄弟たち(アブダッラー現国王など)を抑える権謀術策を弄したはずである。その反面彼には実務能力や統率力或いはカリスマ性が欠けており、将来の国王含みである皇太子としては資質及び健康面で問題があると考えられる。

このことについては既に皇太子即位直後のブログ「タナボタで皇太子になったサルマン王子」(<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0232SaudiCrownPrinceSalman.pdf>)でも触れたが、皇太子兼副首相兼国防相と言う重職にある彼のその後の活動ぶりは全く精彩に欠ける。アブダッラー一国王(首相兼務)に代わり時折閣議を主宰し、或いは GCC 首脳会議に出席している様子をウェブで見てもリーダーシップを発揮しているようには見えない。



嘘か誠か、彼を皇太子から引きずり落とそうとする不穏な噂が流れている。噂の主は駐米大使を長く務め、現在は中央情報局長官のバンドル王子である。彼はサルマンの健康に問題があり、皇太子の任に堪えずとしてアブダッラー国王にサルマンの廃嫡を進言したとされる<sup>3</sup>。厚いベールに覆われたサウド王家内部の問題であり、またこれを報道したのがイランの国営インターネットメディアであるため

完全に鵜呑みはできないが、最近のサウジ政府の外交活動とサルマン皇太子の動向にギャップがありすぎるのである。

最近のサウジの対外方針に見られるのは宗教の面から言えばシーア派及びスンニ派ムスリム同胞団との対決姿勢であり、国際外交では米国に対する強い不信感である。シリアのアサド政権打倒を掲げシリア反政府組織を支援することによりシーア派イランとの対決姿勢を明確にしている。またエジプト暫定政府を支援し国内でムスリム同胞団を非合法化したのはスンニ派原理主義運動に対決する姿勢を示したものであろう。さらに国連安保理事国辞退<sup>4</sup>と言う破天荒な国際外交はこれまでの米国追随姿勢からの転換を内外に示したものであった。シリア問題に関連してバンドル王子がモスクワでプーチン大統領と意見を交わしたこと<sup>5</sup>などはその典型的な例であろう。

シリア、イスラム同胞団そして対米外交と言う難問を抱えたサウジアラビアにとって、日中などのアジア諸国を今歴訪する意味は少ない。訪問される側の日中にとってもこれらの問題で明確にサウジアラビアを支援できる状況ではない。コミュニケで謳われた「戦略的パートナーシップ」と言う文言はお互いを傷つけない飾り文句でしかないのである。日中の本音はサウジアラビアから石油安定供給の言質を取ることであり、サウジアラビアにとっては国内の失業問題の解決策となる合弁事業招致のはずである。石油供給の問題について言えばサルマンの訪日にはナイミ石油相は同行していない(中国には同行している)。外交問題については両訪問ともサウド外相が同行していない。つまりサウジ外務省はサルマンの日中訪問は大した意味がないと見ているのである。まして国防省は大臣であるサルマンを全くサポートしていない。

サルマンは今や国内で誰からも相手にされず孤高の状態なのであろう。もちろん彼はNo.2でありお家騒動をきらうサウド家の風潮を考えれば事態がドラスティックに変化する可能性は少ないかもしれない。しかしいずれアブダッラーが亡くなりサルマンが国王に即位するなら、それは本人自身にとってもまたサウジアラビアにとっても不幸なことかもしれない。これは民間企業の社長のポスト争いにたとえれば解りやすいであろう。即ち有力な社長候補を有する派閥の参謀が権謀術策を弄して親分を社長に押し上げ、親分はその功績に報いるため参謀を副社長に引き上げる。ところが親分の社長が亡くなり、参謀は成り行きで社長に昇格したものの経営能力はなく社員の信頼もないため彼は社内から総すかんで食うのがおちであろう。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

---

<sup>1</sup> 外務省プレスリリース: [http://www.mofa.go.jp/mofaj/me\\_a/me2/sa/page4\\_000382.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/me_a/me2/sa/page4_000382.html)

<sup>2</sup> Arab News on 2014/3/14, 'Riyadh seeks Beijing's help to end Syria crisis'  
<http://www.arabnews.com/news/540016>

<sup>3</sup> PRESS TV:  
<http://www.presstv.ir/detail/2013/12/15/340153/ksa-spy-chief-to-remove-king-successor/>

<sup>4</sup> Arab News on 2013/10/19, 'Kingdom will not be part of 'ineffective Security Council with double standard', <http://www.arabnews.com/news/468162>

<sup>5</sup> Arab News on 2013/12/5, 'Saudi Arabia, Russia in push for Syria solution'  
<http://www.arabnews.com/news/487746>